

半田市 蔵出し情報 報道機関提供資料

問い合わせ	新美南吉記念館 館長 榊原一人 0569-26-4888
-------	------------------------------------

令和元年 7 月 1 8 日提供 (事前情報・事後情報)

名 称	新美南吉生誕祭「正八ちゃんの宵祭り」に向けて稽古中
日 時 場 所	<盆踊り・太鼓の稽古> 岩滑盆踊唄保存会 日時 7月21日(日) 19時30分～ 場所 岩滑コミュニティセンター(半田市岩滑中町7丁目) <囃子の稽古> 岩滑山車保存会 ※南吉の生家がある地区 日時 7月19日(金) 19時30分～ 場所 岩滑八幡社社務所(岩滑中町7丁目80) 岩滑新田平井組 ※南吉の養家がある地区 日時 7月20日(土)～26日(金) 19時30分～ ※24日は休み 場所 観音会館(半田市平和町6丁目37) 岩滑新田奥組 ※南吉の父渡辺多蔵の出身地区 日時 7月22日(月)～26日(金) 20時～ 場所 奥組山車サヤ(半田市新生町2丁目 旧大野街道沿い) 詳しくは、新美南吉記念館へお問い合わせください。
主催(宵祭り)	新美南吉記念館 TEL (0569) 26-4888
参加者/対象者 氏名・年齢など	本番の「正八ちゃんの宵祭り」(7月27日)はどなたでも参加できます。 盆踊りや囃子演奏の他に、地元やボランティアの協力による縁日、フェイスペイントサービスなどが行われ、ご家族でお楽しみいただけるイベントです。
趣 旨 (目的)	新美南吉のふるさとに伝わる盆踊りやお囃子を通して、南吉の世界に親しみ、南吉の生誕を祝います。
内 容	新美南吉記念館では、別添チラシの通り、新美南吉の106回目の誕生日を祝う「新美南吉生誕祭」を7月27日(土)から30日(火)にかけて開催します。現在、そのメイン行事のひとつである27日夜の「正八ちゃんの宵祭り」にむけて、出演する諸団体が稽古に励んでいます。
担当者 情熱メッセージ	岩滑地区に昔から伝わる盆踊唄「シヨングイナー」は地元固有の盆踊唄が珍しくなっている中、岩滑盆踊唄保存会の努力により、現在もお盆に岩滑八幡社で踊られています。また、南吉さんは岩滑のお祭りが大好きで、地元の祭を題材に童話や詩を書いています。南吉も親しんだお囃子や盆踊りで誕生日を賑やかに祝いたいと思います。
別 紙	有 ・ 無
写 真	事前提供可 ・ 事後提供可

半田市企画課広報情報担当
0569-84-0603



<新美南吉と盆踊り>

新美南吉は盆踊りが大好きでした。昭和8年の日記には、東京から帰省してきた南吉が、常福院（岩滑）で行われている踊りの稽古を見に行ったり、順正寺（上半田）まで行って新作盆踊りの歌を覚えて来たりしている様子が記されています。

「シヨンガイナー」は岩滑地区に昔から伝わる盆踊唄です。地元固有の盆踊唄が珍しくなっている中、岩滑盆踊唄保存会の努力により、現在もお盆に岩滑八幡社で踊られています。

盆の十五日の夕方、青年たちが、現岩滑中町七丁目のシマヤの辻に集まり、シヨンガイナーを踊ったあと、浄土宗の新仏のある家へ出かけていき、庭で供養のためにシヨンガイナーを踊った。しばらく踊ると、その家の人々が仏壇に供えてある送りだんごや菓子、果物等をお礼に出す。これを出さないと

「やれそれ送りだんごよこせ・・・」とはやしたてる踊りがはじまる。

子どもたちも、この踊りについて村々を廻り、おかざりの送りだんごであるおてっぽやトマト、うりなどの果物をわけてもらうしきたりになっていた。

村をひと廻りすると常福院へ集まり、子どもや村の人たちも輪になって夜おそくまで踊りあかすことになっていた。

『やなべの歩み』（昭和60年・岩滑コミュニティ推進協議会）より

<新美南吉と祭囃子>

新美南吉が昭和13年4月に作った詩「祭」にふるさと岩滑の祭囃子が描かれています。

「祭」

月の夜ごろは／いっそう小さく／村は見え／祭はすると／近づいて来る
大だい鼓がどろどろと／どゞろき／小鼓（こづけ）がぱんこぱんこと／はじくようにつづく
月夜もかいどう沿いの／あきない店が／あかりを道に／ぽつぽつとなげ／そのあかりに／脚てらされてゆく旅人が／かぼそに流れる笛の音を／どんなに侘しくきくか
あの小鼓のぱんこぱんこ／はじく音は／どこまでいったら／旅人の耳から消ゆるそ
あの流るゝ横笛の音は／どこまで憂愁の／あとをついてゆくぞ
月の夜ごろは／村はいっそう小さくなるが／そこへ祭が来て／村は小さくはなやかになる

過去の写真



岩滑盆踊唄保存会の稽古



岩滑山車保存会の囃子稽古